



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療  
先進医療の推進  
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎宏太郎  
編集責任者 広報委員長 高橋浩二  
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1  
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

## ウィンタースポーツと顎関節障害

顎関節症治療科 科長 船登 雅彦

師走、年の瀬の心せわしい季節となりました。

今年は2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に関連した新国立競技場の整備費用、東京オリンピックエンブレムの白紙撤回、あるいはラグビーワールドカップで活躍した五郎丸選手などスポーツに関連した話題が多かったように思われます。

冬季に行われるスポーツとしてはスキー、スノーボードおよびスケートなどが思い浮かびます。日本における冬季オリンピックは1972年に札幌、1998年に長野で開催されています。昨年のソチオリンピックではフィギュアスケートの羽生結弦選手が金メダリストとなりました。羽生選手は今年11月に長野で開催されたフィギュアスケートのグランプリシリーズ NHK杯で3度の4回転ジャンプを成功させ、世界初の300点超えの322.40の最高得点で優勝しました。羽生選手は何事も強い意志をもって行動を起こせば必ずできるということを証明してくれました。

ところで皆さんは本学職員にオリンピック選手がいるのをご存じでしょうか。アイスホッケー女子日本代表(スマイルジャパン)の獅子内美帆選手、藤本もえこ選手および浮田留衣選手です。アイスホッケー女子日本代表は1998年の長野オリンピックに開催国枠で出場して以来、初めて予選を突破し2014年のソチオリンピックに出場しました。昭和大学ではオリンピック選手が競技を安心して続けられるようにサポートしています。

高齢社会となった日本においては生涯スポーツを楽しむために歯科医師のサポートが重要となります。スキーやスノーボードなどは寒い場所で行

うため無意識のうちに歯を喰いしばることがあります。そのため顎関節(がくかんせつ)に過大な負担がかかり痛めてしまうことがあります。予防としては弾性のあるマウスピース(スポーツマウス



ガード)を装着し顎関節への負担を軽くします。また、転倒することも多く、脳震盪を起こしたり口の中を怪我(歯の破折や脱臼)することがあります。口腔外傷の予防策としてもスポーツマウスガードの装着をお勧めします。当院スポーツ歯科外来ではアスリートやスポーツ愛好者へ快適なカスタムメイドスポーツマウスガードを提供しています。

さらに顎関節に痛みを生じたり、口が開きにくくなった場合には治療が必要となります。治療法は様々ですが、顎関節への負担を軽減したり、睡眠時の歯ぎしりや喰いしばりに対しては硬いマウスピース(スプリント)を夜間に装着する方法があります。顎関節症治療科では顎関節障害への治療としてスプリント療法も行っております。お気軽にご相談ください。

それでは、良いお年をお迎えください。



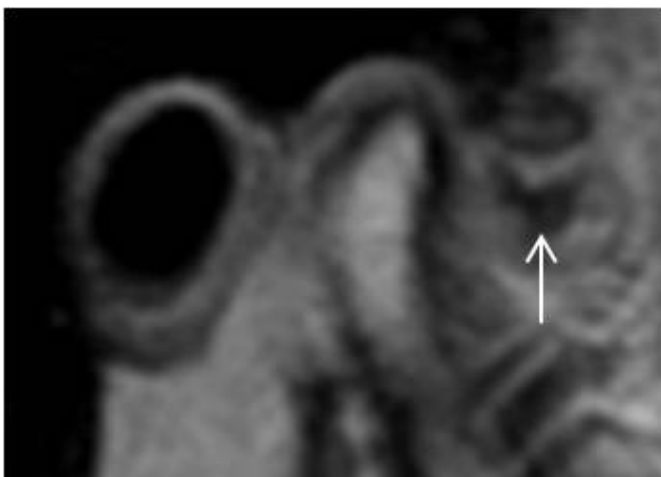
スポーツマウスガード

## 顎関節症治療科紹介

食事をするたびにあごからカクカク音がする。硬い食物を咬むとあごから大きな音がして痛くなる。このようなあごの音や痛みを感じると不安になるものです。さらに、その症状が徐々に悪化し、口が大きく開かなくなり日常生活に支障をきたすこともあります。口の開閉時の音、あごの関節や下顎を動かす筋肉の痛みのほか、口を大きく開けられないという症状は顎関節症(かくかんせつしょう)という病気の可能性があります。

顎関節症の原因はたくさんあり、いくつかの原因を抱え込んだ時に症状が出ます。例えば打撲、頬づえ、ストレス、管楽器の演奏、寝ている時の歯ぎしり、スキューバダイビング、長時間の携帯電話の操作、パソコン操作中の無意識の歯の接触があります。

顎関節を構成している頭蓋骨の骨の凹みと下顎の関節突起の骨の間にはクッションの役割をしている関節円板があります。この関節円板が何らかの原因でずれて変形すると、口を開けようとするときにあごがひっかかり、その後、正常な位置にもどるときに音がします。関節円板のずれが悪化して元に戻らなくなると口が大きくあかない状態となります。



MRI(矢印:ずれた関節円板)

患者さんには、まず、日常の生活習慣と一緒に見直し、原因となる習癖を改善してもらいます。診

療としては、顎関節の動きをよくする、あるいは筋を伸展させる「リハビリトレーニング」、昼間に口を閉じているとき、無意識に上下の歯を接触させる上下歯列接触癖を是正する「習癖是正認知行動療法」、寝ている時の歯ぎしりや喰いしばりに対してマウスピース(ナイトガード)を装着する「スプリント療法」などを行います。下顎を動かす筋肉に“しこり”ができて痛む場合には“しこり”の部分に注射をして、痛みをやわらげることもあります。

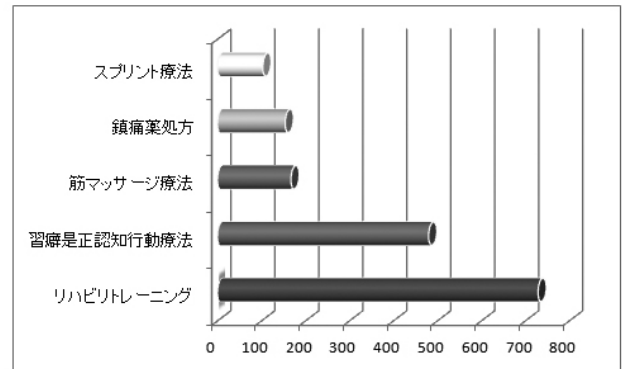


図 治療法の選択数

顎関節症は初期の段階ほど早く治ります。あごの状態がいつもと違うけど自然に治らなと思ったら、日本顎関節学会の専門医が所属する「顎関節症治療科」を受診してください。

顎関節症治療科 科長 船登 雅彦



顎関節症治療科スタッフ

私は、文系の女子大学を卒業後、昭和大学歯学部編入学し、卒業後は学生の頃から興味があった画像診断学を学ぶため、歯科放射線学教室に入局しました。入局当時の教授である岡野先生(現名誉教授)をはじめ、医局員の先生方からは、画像診断の基礎から悪性腫瘍などの難しい症例まで、様々な画像検査法(CT、超音波、唾液腺造影、嚥下造影)とその読像について学ばせていただきました。

また、東京医科歯科大学歯学部では、MRIの読像の研修もさせていただき、その後約10年間、昭和大学医学部でのMRIの読像経験を経て、現在も医学部との連携により、遠隔診断でMRIの読像を継続しています。また、平成11年に新規開設された言語・摂食・嚥下リハビリテーション診療室(現口腔リハビリテーション科)の開設の折には、私もチーム医療の一員として携わらせていただき、そこで嚥下画像診断の基礎を学び、現在も科学研究費の補助を受け、超音波断層法の嚥下動態解析への応用についての研究を大田区の産業医学連携の方々の協力を得て継続中です。このような様々な機会でご得られた知識や技術の一つ一つが、治療の一步でもある画像診断には重要であると、私は考えています。

歯科放射線科では、口内法撮影検査やパノラマ撮影検査のほかに、全身撮影も可能なCT(MDCT)検査、嚥下造影検査(VF)、超音波検査(US)や歯科用CTなど、様々な特殊検査を行っており、炎症や腫瘍(良性・悪性)、嚥下動態、インプラントや埋伏智歯・過剰歯、矯正関連など様々な検査や読像を行っていますが、今でも毎日の外来で新しい事象に出会うことが有り、読像には正確さを求められる一方、読像の限界や自分の未熟さを思い知ることも多々あります。

私事ではありますが、私が放射線科の一員として、これらの検査や読像に携わるようになって、2

3年が経ちました。この23年間に、人生の様々な転機である、結婚、出産、子育て、介護などを経験し、その度に公私にわたり私を支えてくださった放射線科の方々がいました。広く深い知識で様々な助言を下さる研究関連のエキスパートである荒木先生、腫瘍系の読像を専門とする木村先生、インプラント関連のエキスパートである関先生、女性として良き理解者であり同志でもある松田先生、境野先生、研究補助員の加藤さん、可愛い大学院生、外来では、何時も走り回り、撮影に関するわがままな注文を聞いてくれる技師や受付の方々が、私を支えてくれているからこそ、感謝しています。私たち放射線科医の仕事は、縁の下の力持ち的なところもありますが、治療の土台でもあり、気を抜くことはできません。主な仕事の一つである読像作業は、画像をじっくり眺めて診断に関する手がかりを一つ一つ探していくというとても地味な作業です。難解で稀な症例でも、小さな異常所見を一つ一つ探し出し、まとめ上げていくという地道で時間のかかる作業となりますが、私はこれからも、知識や技術の取得にはゴールはないのだと思い、日々精進していきたいと思っています。



研修医に、超音波検査の指導中



## 歯科病院防災訓練 ～大規模地震を想定して～

当院で11月27日、大規模地震に備え防災訓練を実施いたしました。

午後4時、東京を震源とする震度5強の地震が発生したと想定した訓練は、歯科病院防災対策マニュアルに則って、災害対策本部設置、各部署から建物内の被害状況の報告(第1・2報)を行い約30分で完了しました。

訓練終了後、初期消火に重要な消火器、および屋内消火栓の使用方法的説明会を実施しました。

災害発生時に職員が混乱することなく最適な行動がとれるよう、日ごろから意識し行動ができるよう今後も訓練実施にご協力をお願いいたします。

来年度は、今回の訓練で明らかになった課題を改善するとともに、災害発生時のさらなる体制強化にこれからも取り組んでまいります。

事務課管理係



消火器使用方法の説明会の様子



## 公衆電話移設・駐輪場に自動点灯照明を設置いたしました

公衆電話の設置場所を1階放射線室待合脇に移設致しました。また、公衆電話は院内に1台のみとなっております。

駐輪場内に自動点灯照明を設置いたしました。今後共、お足元に注意し自転車の出入れをお願い致します。

事務課管理係



公衆電話の設置場所



駐輪場

## 患者さん対象 インプラント治療に関する説明会のお知らせ

インプラント治療について、わかりやすく御説明いたします。どうぞお気軽にご参加ください。

第45回 日時:平成28年1月26日(火)

12時00分～1時30分

第46回 日時:平成28年2月23日(火)

12時00分～1時30分

会場:昭和大学歯科病院 6階 第2臨床講堂

参加費:無料 当日直接会場へお越し下さい。

(事前申し込み不要)

演者:昭和大学歯科病院 インプラントセンター  
センター長 尾関 雅彦 教授

お問い合わせ:昭和大学歯科病院事務課管理係

## 編集後記

羽生結弦選手が止まらない。11月末、100m走では8秒台に相当するといわれた NHK杯での300点超えから、約2週間。バルセロナで行なわれたグランプリファイナルではさらに得点を上げて男子選手史上初の3連覇を成し遂げました。さて羽生選手が強くなったのは歯並びが綺麗になってからというのをご存知ですか? またある研究ではしっかりした噛み合せにより瞬発力が増すことも証明されています。歯並びに自信がない方、ぜひ当院スタッフにお気軽にご相談下さい。それでは皆様、良いお年をお迎えください。

(K.T)